

一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会
2019年度第5回定例理事会議事録要旨

日 時：2019年11月8日（金）16：00～19：00

場 所：東海東京証券（株）オルクドール・サロン

出席者：理事長：東口高志

副理事長：佐々木雅也

監 事：田妻 進、寺本房子、土岐 彰、比企直樹

理 事：飯島正平、石井良昌、犬飼道雄、遠藤陽子、倉田なおみ、小谷穰治、小山 諭、

斎藤恵子、篠 聡子、清水孝宏、鈴木 裕、高増哲也、中瀬 一、鍋谷圭宏、野上哲史、

二村昭彦、福島亮治、丸山道生、三原千恵、室井延之、山中英治、吉田貞夫、鷺澤尚宏

特任顧問：平井敏弘、平田公一

事務局幹事：伊藤彰博

記 録：中川庸幸（事務局）

欠 席 者：理 事：祖父江和哉

（敬称略：五十音順）

議 題：

I. 理事長挨拶

定款第5章第28条に則り、2019年度第5回定例理事会を開催することが宣言され、定款第5章第30条に則り、議長は理事長が務め、議事録署名は定款第33条に則り、理事長と出席した田妻 進監事、寺本房子監事、土岐 彰監事、比企直樹監事となることが確認された。

II. 前回理事会議事録の確認について

承認された前回理事会議事録が示され、議事録署名手続きに入ることが報告された。

III. 会員動向について

事務局から2019年9月30日時点の会員動向について、報告された。

■2019年9月30日現在 ※宛先不明118名含む、退会・休会（170名）除く

会員種別	2019年6月30日	2019年9月30日	増減
名誉会長	2名	2名	±0名
名誉会員	44名	44名	±0名
特別会員	50名	50名	±0名
代議員	234名	234名	±0名
学術評議員（代議員は除く）	422名	420名	-2名
正会員	21,635名	22,267名	+632名
寄贈会員	8名	8名	±0名
総数	22,395名	23,025名	+630名

■職種別

医師	4,833名	栄養士	81名	診療放射線技	3名
歯科医師	426名	臨床検査技師	730名	その他*	808名
看護師	4,314名	理学療法士	455名	*ログインシステム未入力会員	
准看護師	4名	作業療法士	127名	合計	23,025名
薬剤師	4,121名	言語聴覚士	641名		
管理栄養士	6,351名	歯科衛生士	131名		

IV. 委員会予算執行状況について

事務局から2019年1月1日～9月30日までの委員会予算執行状況が報告された。

V. 第34回(2019年)学術集会会計収支報告について

第34回学術集会 福島亮治会長から第34回学術集会の概算決算報告がされた。現在、公認会計士の監査が進めてられており、本会計とともに2019年度監査を受ける予定であることが報告された。

VI. 名誉会員・特別会員推戴について

2020年3月31日までに満66歳になられる会員の方の推戴候補者の提案がなされ、次の通り推戴することが承認された。なお、来年以降の本手続きについては、年齢条項により推戴調査対象が増えることが想定されるため、事前に総務委員会で学会活動歴などの推戴調査を行った上で、理事会での候補者審議を行うことになった。

【名誉会員】木村 理先生、倉田なおみ先生

【特別会員】片山寛次先生、瀬下明良先生、谷口正哲先生、鈴木宏昌先生、飯田則利先生

VII. 第38回(2023年)学術集会会長選挙の公告について

定款第37条に基づき、2020年2月26日(水)の第7回定時社員総会において、第38回(2023年)学術集会会長選挙を行うことが案内された。最終的には第7回定時社員総会にて選任となる。なお、第38回学術集会は、第6回定時社員総会にて、神戸国際会議場での開催が承認されている。

VIII. 第39回(2024年)学術集会開催候補地について

学術集会実践支援委員会より2024年は、東日本を開催候補地として調査を進めていることが報告された。

IX. 2020年度 第7回定時社員総会の招集について

本理事会にて第7回定時社員総会の招集についての決議がされた。

日 時：2020年2月26日(水) 16:00～18:30 (名誉会員・特別会員推戴式 18:30～)

場 所：国立京都国際会館「Room A」

X. 来年度予算案・事業報告・事業計画書作成について

事務局から各担当理事に対して、事業報告・次年度予算案・事業計画の作成依頼がされた。

XI. 第35回学術集会について

佐々木雅也会長より今回のプログラム案が提示され、気付いた点等あれば速やかに学術集会事務局へ連絡することが確認された。これに関連して、福島亮治理事より胃外科術後障害研究会とのジョインセッションについての企画があがっており、現在調整中であることが報告された。

XII. 「ESPEN HIGHLIGHT TOPICS 2019」配布許可の手続きについて

ESPEN学術集会記録集は、(株)大塚製薬工業との契約に基づき、共同での作成物として発行している。本会役員・代議員・学術評議員への配布についての許可申請があり、承認された。

記録集名称:ESPEN HIGHLIGHT TOPICS 2019

内容:2019年8月31日～9月3日に開催されるESPEN 41st Congress(クラクフ, ポーランド)で取り上げられた演題について、日本の医療従事者に有用なテーマを選択し記録集として編纂する。

XIII. 税務調査について

当会所管の京橋税務署から連絡があり、本年10月30日(水)～31日(木)の2日間で税務調査が行われ、会計事務所、学会事務局にて対応したことが報告された。

XIV. 新支部制度：関東（関東甲信越支部・首都圏支部）の区割りについて

前回理事会の決定に従い、各支部に対して新支部制度の概要・地区割りの再編についてご案内した。各支部には個別説明も行った。関東甲信越支部と首都圏支部については、区分について再調整の希望があったため、本理事会にて当該支部の一定の方向性を決定する必要があることから、同2支部の区分けについて審議を行った。支部区分けについては、日本医学会加盟分科会の例なども紹介され、複数の区分け案も提示されたが、当該支部の最終区分の決定は次回の2020年2月の第1回定例理事会とすることとし、それまでに、現当該支部長と支部統括委員会などで会議を設置し審議することになった。それ以外の新支部制度の方針と再編は、変更なく進めていくことで改めて承認がされた。

XV. 各種委員会・部会 審議事項

総務委員会（飯島理事）

・理事会推薦による代議員審査申請について

昨年の臨時社員総会において、「理事会が特に必要と認めた者は、代議員候補者として、定時社員総会へ推薦され、定時社員総会の承認を得て代議員となることができる。」と定めた。今年以下6名の申請と推薦があった。各候補者の推薦書・履歴書を審査し、第7回定時社員総会へ本理事会からの推薦代議員として提出することが、承認された。

白井 正信（藤田医科大学外科・緩和医療学）

斉田 芳久（東邦大学医療センター大橋病院医療安全管理室）

瀬戸 泰之（東京大学医学部附属病院胃食道外科・乳腺内分泌外科）

土岐祐一郎（大阪大学大学院医学系研究科外科系臨床医学専攻外科学講座消化器外科学）

中山 真美（島根県立大学看護栄養学部）

花崎 和弘（高知大学医学部・外科学講座外科1）

（五十音順・敬称略）

・科学技術振興機構「学会誌 JSPEN」著者抄録利用許諾について（編集委員会審議含）

国立研究開発法人科学技術振興機構（以下、JST）より、JSTが提供する文献データベースである「JDreamIII」および「J-GLOBAL」における本刊行物に関する著者抄録利用許諾についての契約依頼があり、利用を許諾することが、承認された。

・日本栄養療法推進協議会(JCNT)への派遣について

本年はJCNTの役員改選年となるため、派遣理事・委員等の確認依頼があり、2020・2021年度のJCNT役員・専門委員として以下の先生方の推薦することが、承認された。

理事：大柳治正、東口高志、比企直樹

評議員：入山圭二、馬場忠雄（任期4年：2022年まで）

認定委員：佐々木雅也、鷺澤尚宏

教育事業検討WG：鍋谷圭宏

庶務幹事：伊藤彰博

・第4回日本老年薬学会学術大会後援依頼について

第4回日本老年薬学会学術大会の平井みどり会長より、当会へ後援名義使用の申請があった。過去にも同申請・承認を経ていることから、内容を確認し、後援承認がされた。

広報WG（吉田理事）

・ニュースレターの新規発行について

機関誌「日本静脈経腸栄養学会雑誌」の発行が12月25日発行の第34巻5号で終了となる。

機関誌の後付けとして掲載してきた学会会告など会員への送付物・連絡手段が、今後はホームページ、メールニュースのみとなるため、新しい連絡手段としてニュースレターを発行することが、承認された。創刊に際しては、以下の内容で進めていくことになった。

1) ニュースレターの概要について

形態：print、A3 両面、カラー

発送：A3 を 2 つ折り、A4 サイズにした上、3 つ折りにし、長 3 封筒に封入発送を想定

部数：22,000 部

頻度：年 4 回（2020 年度は、学会の名称変更などもあり、年 5 回を見込む）

2) ニュースレター創刊号のコンテンツ案について

理事長挨拶

学会名称変更について

第 35 回学術集会会長挨拶

第 35 回学術集会開催概要と聴きどころ

連絡事項（学会会告）

保険委員会（飯島理事）

- ・高カロリー輸液用総合ビタミン剤の安定供給に対する要望書について

日医工(株)より、ダイメジン・マルチ注の安定供給を継続するために弊社は来年の薬価改定に向け、本製剤を不採算品として再算定していただくよう厚生労働省医政局経済課へ要望書提出に関する相談があり、必要な要望内容であることを確認し、特段の配慮を希望する意見書を学会から提出することになった。

- ・がん悪液質治療薬の早期承認に関する要望書について

小野薬品工業(株)より、先般、医薬品第一部会にて、がん悪液質治療薬（一般名：アナモレリン塩酸塩、以下、本剤）が継続審議となったことを受けて、がん悪液質は、経口摂取の減少や著しい筋組織の減少を特徴とする複合的な代謝障害症候群であり、がん悪液質に対する治療介入の必要性は高いとの点から要望書提出に関する相談があり、必要な要望内容であることを確認し、特段の配慮を希望する意見書を学会から提出することになった。

教育委員会（鍋谷理事）

- ・2020 年第 4 回 NST 専門療法士受験必須セミナーの変更について

2020 年の第 4 回受験必須セミナーは、2020 年 9 月 19 日(土)～20 日(日)に大阪（毎日新聞オーバルホール）で行う予定であったが、同日程は ESPEN2020 が開催されるため、講師の確保などが困難になる可能性を考慮して、2020 年 10 月 24 日(土)・25 日(日)に博多（JR 九州ホール）で行うことに変更する案が提出され、承認された。

- ・2020 年の第 7 回・第 8 回 JSPEN 栄養マスターコース開催について

第 7 回・第 8 回の日程を 2020 年 4 月 5 日(日)、10 月 4 日(日)にて東海東京証券（株）オルクドール・サロンを確保した。マスターコースの講師については、理事職の方に優先的にお願いする方針で進めることが確認された。第 7 回については、野上哲史理事、山中英治理事に講師をお願いすることで調整していくことになった。

- ・新しい医師・歯科医師セミナーの立ち上げについて

TNT 研修会へのアボットからの支援が近い将来打ち切りとなるため、2020 年度をもって TNT 研修会は終了予定となる。それに伴い、現在の医師さらには、歯科医師の教育カリキュラムを本学会が中心となって新たに作る必要が生じたため、関係者が集まって今後の方向性について検討したことが資料に基づいて報告された。実施にあたりいくつかの問題を解決する必要があるが、最初の取り組みとしてテキスト教材の作成が緊急の課題となる。同会議ではテキストの項目、執筆候補者までの素案を作成した。本理事会では原案どおりの案で進めるこ

とが確認された。今後、日本外科代謝栄養学会との共有も必要になることから、各関係者で実施にむけた調整に入るようになった。

- ・日本在宅静脈経腸栄養研究会との協力体制における広報協力の範囲について
 当会主催の教育セミナーでは、JSPEN 主催事業（本会学術集会、支部学術集会）については、チラシの配布、ポスターの掲示など学会主催の事業については、幕間スライドや受付ホールにて広報を行っている。当会の関連学会の位置付けとしてはNST 専門療法士認定規程に定める当委員会が適切と認める学会・研究会がある。またこれとは別に本会理事会で個別に確認された指定の学術団体との協力活動もあり、そのような団体からのチラシやポスター掲示などの要望があった場合の対応について確認がされた。審議の結果、上記の該当するものであれば、チラシやポスター掲示などの広報協力は問題ないとの認識で一致し、今後、対応していくことになった。

教育委員会 LLL WG（高増理事）

- ・第 18 回 LLL ライブコースのプログラム案について
 第 18 回 LLL ライブコースは、2020 年 3 月 14 日（土）・15（日）に北里大学薬学部（港区）での開催企画（講師・担当 Topics・予算案）が提出され、承認された。

薬剤師部会（二村理事）

- ・日病薬病院薬学認定薬剤師制度研修単位シール配布の運用について
 2020 年 1 月 1 日より、日病薬病院薬学認定薬剤師制度研修単位シールを配布する際には、受講者の名簿の提出が必須となった。薬剤師部会では当日の煩雑さを解消するために検討した受付手順が提示された。混乱を避けるため配布時間・人員配置・必要備品などを考慮の上、進めていくことになった。
- ・NST 実力向上セミナー（仮）薬剤師部会個別セミナーについて
 各部会実施する個別セミナーについて検討を行い、第 1 回テーマ案は『静脈経腸栄養療法における薬剤相互作用とその対処法』にて進めていくことが報告された。今後、本理事会にて進捗状況の報告や講師案を提示しご協力をお願いしたい。

NST 委員会（中瀬理事）

- ・NST 委員会規約変更について
 2019 年度第 1 回 NST 委員会を 10 月 27 日（日）に開催した。本年度の新規・更新審査の他、NST フォーラムの件など審議を行ったが、将来的な NST 稼働施設認定および本委員会の活動についても審議し、以下の変更について委員会で承認されたことが報告され、本理事会でも承認された。

■NST 委員会規約変更（支部選出委員の項目の削除）

旧	新
第 6 条 委員の任命 <u>委員は委員長により任命される。</u> 2. <u>各地域での NST 活動の適正化や活性化を促す目的で、各支部から推薦された代表を支部選出委員として任命する。</u> 3. <u>支部選出委員は、本委員会事務局との連携のもとに、支部内の NST 立ち上げ宣言を行った施設、NST 稼働認定施設で、円滑な NST 活動・運営が行われるように協力する。</u>	第 6 条 委員の任命 本委員会の委員は定款施行細則 26 条（委員の選出）に従い決定される。
	6. この内規は、令和元年 11 月 8 日から改定施行する。

- ・NST 稼働認定施設更新要件変更について
各支部選出委員の選出は修正となったため、現状の委員会の運用に合わせて変更することが承認された。

■NST 稼働施設認定規程変更

旧	新
<p>第7条 NST 稼働認定を受けるための資格</p> <p>2. 更新施設認定基準と更新の保留</p> <p>12) 何らかの理由によって、基準を満たさない場合は、<u>各支部選出委員が内容を調査し、結果を委員会に報告する。</u>年度内の認定が困難な場合は、当該施設からの希望があった場合に、1年以内の認定保留期間を置く。基準を満たした場合には随時、委員会で審議し、更新可否の決定を理事会に申告し認定を受けることができるが、年度を超えた場合は認定が取り消され、その次回からは新規の申請を要す。保留期間後に認定を受けた場合も、更新期限は延長せず、本来の更新から5年とする。</p>	<p>第7条 NST 稼働認定を受けるための資格</p> <p>2. 更新施設認定基準と更新の保留</p> <p>12) 何らかの理由によって、基準を満たさず年度内の認定が困難な場合は、当該施設からの希望があった場合に、1年以内の認定保留期間を置く。基準を満たした場合には随時、委員会で審議し、更新可否の決定を理事会に申告し認定を受けることができるが、年度を超えた場合は認定が取り消され、その次回からは新規の申請を要す。保留期間後に認定を受けた場合も、更新期限は延長せず、本来の更新から5年とする。</p>
	<p>6. 本規程は、令和2年2月26日から改定施行する。</p>

- ・NST 稼働施設認定 更新要件の新設について
施設の質の担保の一環として、学術集会中にNST フォーラムとはじめとした参加指定セッションを設けて、一定回数の参加を義務付けことを更新条件に加える案が提出され2021年度の実現に向けて、実施運用などの点をさらに継続して協議していくことになった。

編集委員会（佐々木副理事長）

- ・e-Journal「学会誌 JSPEN」における特集について
「日本静脈経腸栄養学会雑誌」第34巻5号(12月25日刊行予定)をもって刊行終了となる。本会が刊行する学会誌は2020年よりe-Journal「学会誌 JSPEN」に完全移行することから、「学会誌 JSPEN」への特集企画についての提案がされ承認された。特集号の企画方針としては、本会の臨床栄養コンセンサス検討委員会を構成するWT001～009各領域の委員に、各領域に関する企画・テーマでの執筆依頼とし、掲載開始は刊行終了後1年以上の期間を空けて、新規の Kategorie 呼称をつけることで進めていくことが承認された。
- ・論文刊行頻度について
e-Journal「学会誌 JSPEN」について、現在、年4回刊行(1月、4月、7月、11月、各25日)としているが、1号あたりの掲載本数の増加を鑑み、2020年は年5回刊行について提案がなされ承認された。
- ・査読領域アンケートの実施について
現在、論文投稿システム Editorial Manager にご登録いただいている査読者には、登録時に担当いただくことが可能な査読領域を選択いただいている。しかしながら、カバーできない

論文投稿もあること、また、査読にあたってご確認いただきたい規定事項を再度ご案内したいこともあり、改めて査読領域アンケートを実施することが提案され、2020年の代議員新任・再任のタイミングで調査することが承認された。

- ・「静脈経腸栄養テキストブック」改定版の発行について
2020年1月より学会名称が変更となること、また、「静脈経腸栄養テキストブック」の発行から3年が経過することから、学会名称変更の機会に合わせて、いくつかの内容を改定した「一般社団法人日本臨床栄養代謝学会 静脈経腸栄養テキストブック」の発行に向けて具体的な企画検討を進めることが承認された。

用語委員会（中瀬理事）

- ・用語解説に関して
今後、「用語解説」に取り上げるにふさわしい用語に関して本委員会で審議した。複数取り上げられたものとしては、「悪液質」「リフィーディング症候群」「フレイル」「サルコペニア/サルコペニア肥満」「L-カルニチン」であった。既にいくつかの「用語解説」が編集行程には入っており、上記の「用語解説」を掲載していく企画案が承認された。

ガイドライン委員会（小谷理事）

- ・Systematic review 班（SR 班）のメンバーの選定について
「がん患者のための代謝・栄養管理ガイドライン」作成のためのパネル班が決定され、GRADE system に基づいた CQ と Answer を作成する「GRADE 班」と、narrative 作成法に基づく解説を作成する「Narrative 班」の2班を構成したことが報告された。今後、GRADE 班では CQ の立案、PICO 作成を行うにあたり、それぞれの PICO に対する systematic review (SR) を行う委員を選定する必要がある。SR 班は仕事量が多く情熱が必要であり、英語論文の読解力とある程度の SR の経験がある方が望ましい。以下の選定方法・役割分担方針が提示され、選定方針について承認がされた。
 - ① SR 班の半数をアカデミック班への推薦として割り振る。
 - ② 残り SR 班は、公募形式で集める方法を採用する。
 - ③ 最終的な選定はアカデミック班で行い、理事会審議の上、承認を得る。

その他（鍋谷理事・鷺澤理事・犬飼理事）

- ・日本医学会連合研究倫理委員会版：学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針について
2019年9月24日付にて日本医学会連合研究倫理委員会から学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針案が提示された。本件は「演題応募時の倫理的手続き」について定めており、今後、日本医学会連合加盟団体での学術集会における演題発表については、これらに準拠して手続きに組み込んでいく必要がある。当会はメディカルスタッフの発表も多いこと、所属施設に倫理委員会がない施設もあることから、そのような事例での学会発表について準備を進めておく必要がある。さらに会員への公示も必要であることから、JSPEN2021から段階を経た演題応募における倫理的手続きに関する対応を行っていく必要があることから、第35回学術集会よりその旨のアナウンスを行うことが承認された。具体的な提示方法や内容については、第36回学術集会会長の鍋谷理事、倫理・利益相反委員長の鷺澤理事、学術集会実践支援委員長の犬飼理事で検討していくことになった。

XVI. 各種委員会・部会 報告事項

支部統括委員会（犬飼理事）

- ・新支部制度の移行について

本年9月に各支部長・世話人会に対して、新支部制度移行に関する通知文をお送りしたことが報告された。

将来構想委員会（鍋谷理事）

- ・他の委員会と協力しての今後の活動について

臨床栄養コンセンサス検討委員会と協力して、9領域WTの活動を開始したことが報告された。また、LLLライブコースならびにLLL事前学習会は、会計報告も含め、教育委員会の主管とすることで2020年より進めていくことが報告された。

国際委員会（小谷理事）

- ・ESPEN 2019 について

ESPEN-JSPEN meeting 2019 が以下のとおり開催された。JSPENの活動は高く評価されており、双方の理事長から謝辞が述べられた。

日 時：September 1st, 2019, 15:30-16:00

場 所：ICE in Krakow, Poland

出席者：JSPEN：東口高志理事長、小山 諭理事、高増哲也理事（国際委員）、鍋谷圭宏理事（国際委員）、深柄和彦代議員（国際委員）、福島亮治理事（国際委員）、三原千恵理事

ESPEN：Prof. Rocco Barazzoni, Prof. Matthias Pirlich, Prof. Zeljko Krznaric

- ・ESPEN Winter Meeting 2020 および NEMS Meeting 2020 について

派遣メンバーについては、国際委員会内で調整することになった。

■ESPEN Winter Meeting 2020

場所：ニース（フランス）The Westminster Hotel

日程：2020年1月17日（金）～1月19日（日）

同時開催：2020年NEMS (Nutrition Education in Medical Schools) Meeting

■ESPEN NEMS Meeting 2020

場所：ニース（フランス）The Westminster Hotel 内、Salon Belle Epoque

日程：2020年1月19日（日）

国際委員会 nutritionDay WG（小谷理事・小山理事）

- ・研究計画書の修正の倫理委員会・利益相反委員会における倫理審査について

nutritionDayの書類改訂、研究計画書の修正版の倫理委員会・利益相反委員会における倫理審査倫理・利益相反委員会に審査を依頼し、同委員会からは審査を完了後に修正の提案をいただき、これに基づいて修正を行い、ホームページへ掲載したことが報告された。

- ・第57回日本癌治療学会学術集会にてnD調査結果の報告発表（武元浩新委員）について

2019年10月24日（木）に武元浩新委員が、当該学会においてnD調査結果を報告した。

保険委員会（飯島理事）

- ・医薬品経腸栄養剤研究会宛ての依頼書について

過日、厚生労働省との面談の中で「薬事で経口摂取が認められている医薬品扱いの経腸栄養剤を、経口摂取を前提に処方することが一部の都道府県で認められない（査定される）実態がある」との実態報告を行ったところ、「ローカルルールを解消することは本省の政策の方向にも合致しており、当学会から要望書を上げて頂きたい。」とお話があった。本件は改めて全国の査定状況について迅速に情報を収集する必要があったため、医薬品の経腸栄養剤

を扱う業界団体に対して、保険委員会より情報提供依頼を行うため、本委員会で持ち回り審議を行い、別紙の情報提供依頼書を発行・送付することを確認され、医薬品経腸栄養剤研究会宛てに依頼書を発送したことが報告された。

専門能力開発委員会（鍋谷理事）

- ・ベーシックコースなど今後の活動について

専門能力開発委員会として、相互の活動の活性化と情報共有を図ることとしたが、昨年において本年も2019年11月17日(日)に第2回NSTベーシックコースを開催する(東京：満席で募集終了)。今回の企画は薬剤師部会であるが、3部会からタスクフォースを出していただき、初心者が少しでも臨床栄養に興味をもっていただけるような企画を継続したい。来年は、栄養士・管理栄養士部会による企画を予定しているが、3部会が密接に意見交換をして、チーム医療としての栄養療法の中で専門性が向上できる企画を考えたいとの報告がされた。

看護師部会（篠理事）

- ・2019年度看護師部会活動報告について

2019年度看護師部会を以下のとおり学会事務局で開催したことが報告された。

第1回看護師部会：7月6日(日) 13:00～16:00 出席者7名

第2回看護師部会：10月5日(土) 13:00～16:00 出席者8名(内1名Skype参加)

NST委員会（中瀬理事）

- ・NSTフォーラムについて

第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会でのNSTフォーラムに関連し、鈴木俊彦事務次官の特別講演候補日のご連絡があった。

2020年2月28日(金) 第1会場 14:50～15:40(50分予定)

NSTフォーラムは、2月27日(木)の午後にて

「極めよう！NSTの進むべき道」テーマとし、開催する。

演者：滋賀医科大学：佐々木雅也先生、藤田医科大学：桂 長門先生

公立置賜総合病院：水谷雅臣先生、原町赤十字病院：内田信之先生

悠翔会：佐々木淳先生

司会：中瀬 一、野田さおり(NST委員会)

- ・2019年度NST稼働施設認定作業について

2019年度第1回NST委員会を10月27日(日)、学会事務局会議室で開催し審査を行った。

■NST稼働認定施設新規申請の審査結果

新規施設申請数：19施設、新規申請合格数：8施設、書類の不備等再提出：11施設

■NST稼働認定施設更新申請の審査結果

更新施設申請数：356施設、更新申請合格数：101施設、書類の不備等再提出：255施設

編集委員会（佐々木副理事長）

- ・学会誌JSPEN掲載状況について

2019年10月10日現在の掲載状況について報告がされた。

- ・日本静脈経腸栄養学会雑誌刊行状況について

2019年8月25日に第3号が刊行された。今後の刊行スケジュールは下記の通りである。

第4号 2019年10月25日(予定) テーマ「NSTを再考する」

第5号 2019年12月25日(予定) テーマ「日本の栄養療法を考える」

- ・e-Journal「学会誌JSPEN」論文投稿状況(2019年10月10日現在)について報告がされた。

- ・論文の査読遅延について

e-Journal「学会誌JSPEN」の論文査読にて、大幅な遅延が発生したことが報告された。

論文発表の遅延は本学会の信用に関わることから、今後は以下の対応にて再発防止に努めることとした。

- 1) 座長推薦演題の論文投稿時には、ボードご担当の先生より、推薦いただいた座長を含む3名の査読者選定および査読打診を行うことができるようにし、必要査読者数である2名の査読結果を遅延なく入手する。
- 2) 本会事務局にてより早い時期で査読者の先生にご連絡を差し上げ査読状況の確認を行う。
- 3) オンライン論文投稿システム Editorial Manager 上で取得できる査読者実績レポートを活用する。

用語委員会（中瀬理事）

- ・日本医学会用語委員会への参加について
令和元年日本医学会用語委員会が2019年12月17日に日本医師会館会議室で開催される。当会からは対応委員会である用語委員会委員長を日本医学会用語委員として派遣登録しているため、委員長が出席することで日本医学会へ回答したことが報告された。

学術集会実践支援委員会 記念 AWARD 選考 WG（山中理事）

- ・小越章平記念 Best Paper in The Year 2019 選考について
本年度の小越章平記念 Best Paper in The Year に対し10件の応募（うち3件は同一著者）があり、選考委員による選考評価を行った結果、下記論文の受賞を決定したことが報告された。第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会の受賞者記念講演において、発表いただく予定である。
奥川 喜永（三重大学消化管・小児外科学講座）
「Circulating miR-203 derived from metastatic tissues promotes myopenia in colorectal cancer patients」(J Cachexia Sarcopenia Muscle)
なお、今回受賞の奥川喜永会員は、本会より次の研究助成歴の申告がされたため、記念 AWARD 選考 WG において、応募資格ついて審議し、応募資格有として判断したことが併せて報告された。

ガイドライン委員会（小谷理事）

- ・ガイドライン委員会の今後の方向について
 - 1) ガイドライン委員会委員（パネル委員）を、GRADE を行う班（GRADE 班）と narrative を作成する班（narrative 班）に分けることが持ち回り理事会にて承認されたことを受けて班分けの現状報告がされた。
GRADE 班希望：二村昭彦副委員長、岡林雄大先生、金 成元先生、田妻 進先生
narrative 班から GRADE 班転向を打診：郡 隆之先生、外山健二先生、榎本佳子先生
narrative 班希望：長沼 篤先生、並川努先生、青山 高先生、山辻知樹先生、藤本保志先生、松岡宏先生、白石 好先生、高山浩一先生
 - 2) GRADE による CQ の立案はパネル班の案件となるためこれから決定していく。
 - 3) 第1回ガイドライン委員会全体会議を11月21日に開催を予定している。
 - 4) 今後、Systematic review (SR) 班メンバーの選定を予定している。
今後、GRADE 班では CQ の立案、PICO 作成を行うが、次にそれぞれの PICO に対する systematic review (SR) を行う委員を選定する必要がある。SR 班は仕事量が多く情熱が必要であり、英語論文の読解力とできればある程度の SR の経験があったほうが望ましいため、選定方法については理事会での審議をお願いした。
 - 5) ガイドライン用の COI 申告書
GRADE system に基づいたガイドライン作成用の COI 書式を、倫理・利益相反委員会で審査していただき、条件付きで承認を得え、現在手続きを進めている。

以上

2019年11月8日（金）